

第13回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時

昭和62年11月4日(水)

午後2時～2時30分

2. 場 所

宇宙開発委員会会議室

3. 議 題

H-IIロケットの開発状況について

4. 資 料

委13-1 H-IIロケットの開発状況について

第12回宇宙開発委員会（定例会議）

議事要旨（案）

1. 日時 昭和62年9月30日(水)
午後2時～2時30分

2. 場所 宇宙開発委員会会議室

3. 議題

H-Iロケット(3段式)1号機の打上げに係る安全の確保に関する審議について

4. 資料

委12-1 第11回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨(案)

委12-2 H-Iロケット(3段式)1号機の打上げに係る安全の確保に関する審議について

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理

“ 委員

“ “

“ “

斎藤 成文

久良知 章悟

吉山 博吉

曾山 克巳

関係省庁職員等

文部省学術国際局審議官

運輸省海上保安庁総務部長

重藤 学二(代理出席)

金田 徹(代理出席)

他

事務局

科学技術庁長官官房審議官

“ 研究開発局宇宙企画課長

中津川 英雄

青江 茂

他

6. 議事

(1) 前回議事要旨の確認について

第11回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨(資料委12-1)が確認された。

(2) H-Iロケット(3段式)1号機の打上げに係る安全の確保に関する審議について

事務局(青江宇宙企画課長)から、資料委12-2に基づき説明が行われた後、第三部会への審議付託が原案どおり決定された。

H - II ロケット の 開 発 状 況 に つ い て

昭和62年11月4日
宇宙開発事業団

1. 開発の概要

H-IIロケットは、2トン級静止衛星の打上げ能力を持つ、全段国産の大型ロケットで、1990年代における衛星打上げの需要に対応すると共に、日本の宇宙開発の自主性・自在性を確保するものとして計画された。

右に、H-IIロケット全体構成図を示す。

2. 開発状況

昭和59年7月に、宇宙開発委員会第二部会において、H-IIロケットの機種選定が行われた後、宇宙開発事業団は、昭和61年度までに基本設計を終了し、現在、ロケットの詳細設計を実施している。

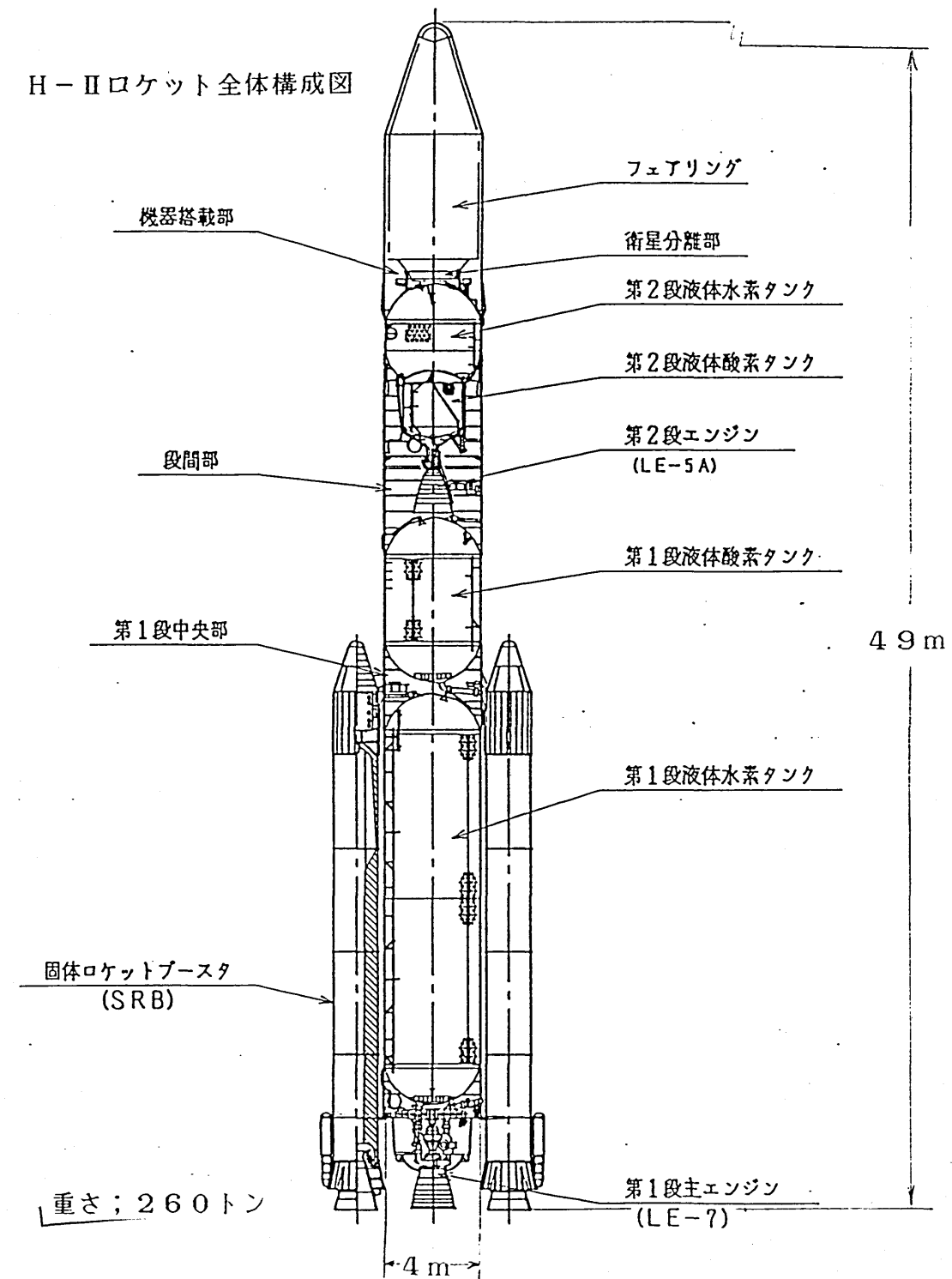
また、ロケットの構成部分である、第1段（エンジンを含む）、第2段、誘導・計測機器、固体ロケットブースタ、衛星フェアリング等について、開発試験を実施している。

特に、第1段主エンジン（LE-7）については、先月の28日より、第2回目のシステム予備燃焼試験を開始しているが、本試験は、今年度末から始まる原型エンジン（実機と同じ形をしたエンジン）燃焼試験のためにエンジン各種のコントロールタイミング等を決定するための重要な試験である。

一方、H-IIロケットの試験・打上げの、施設・設備として、種子島宇宙センターにおいて、第1段エンジン燃焼試験設備、固体ロケットブースタ燃焼試験設備を整備するとともに、射点、発射管制設備等の射場設備を整備中である。

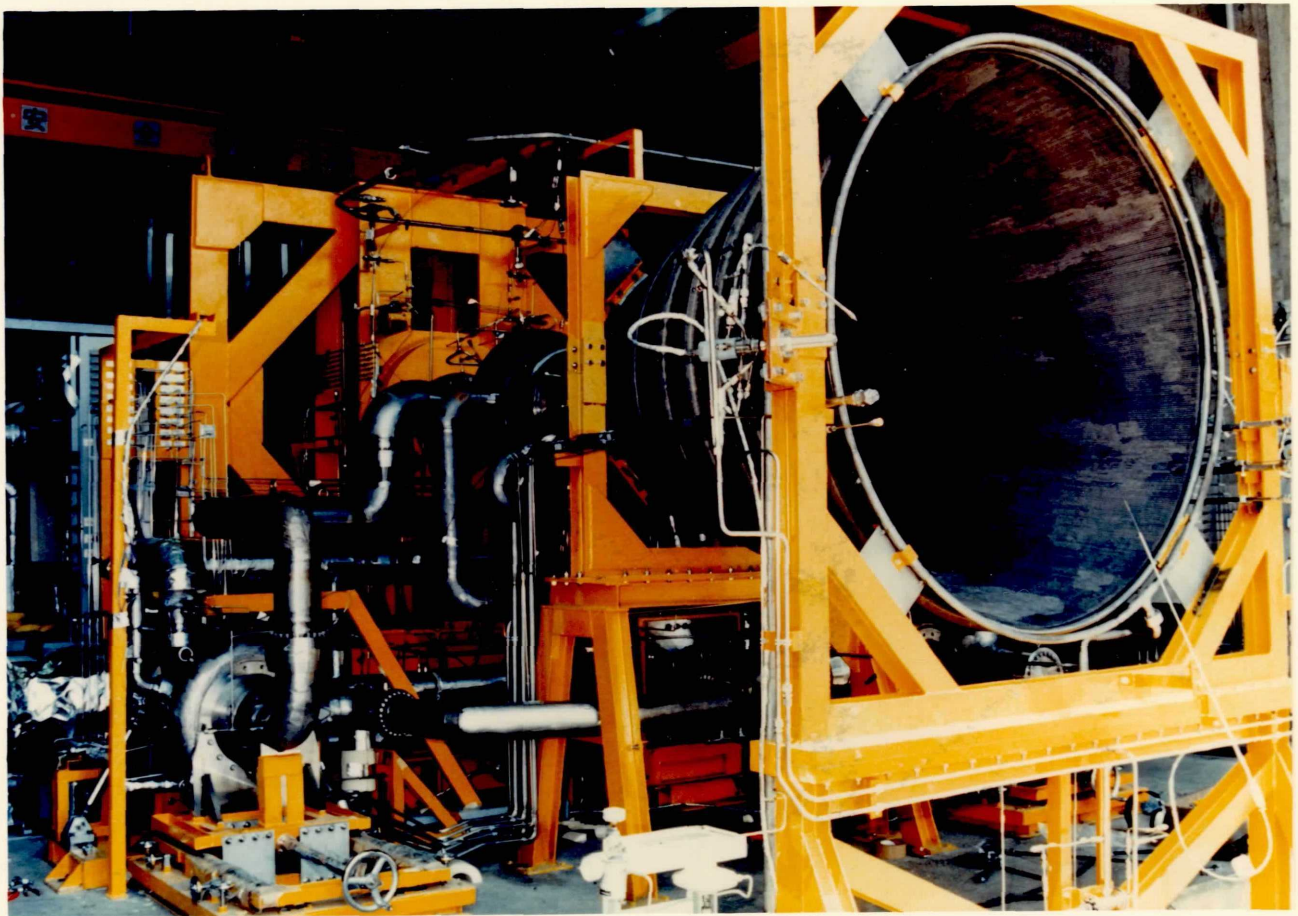
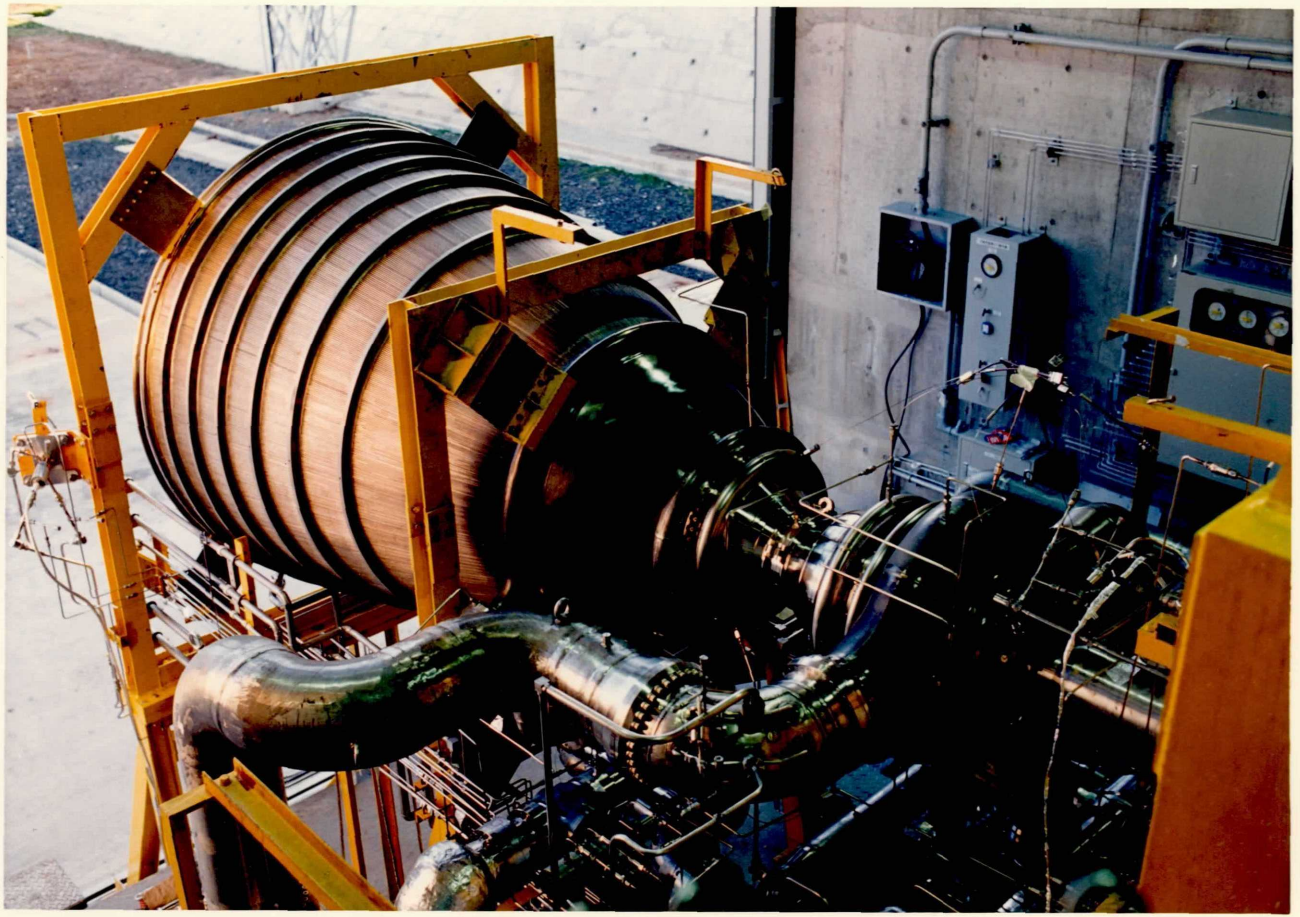
なお、昭和63年度より実際に打上げるロケットの製作を開始し、昭和66年度冬期に試験機1号機として、種子島宇宙センターから打上げる計画である。

H-IIロケット全体構成図

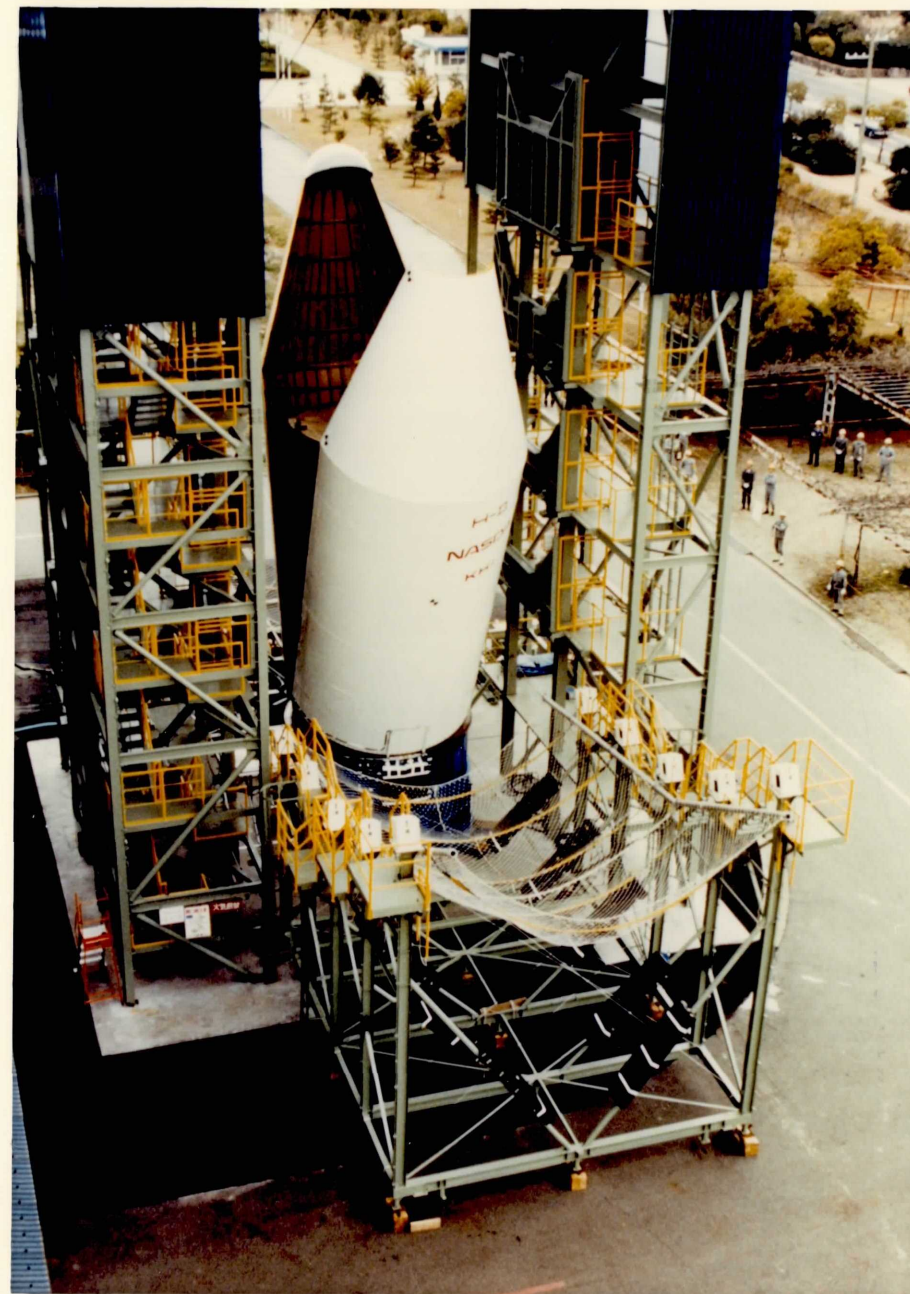
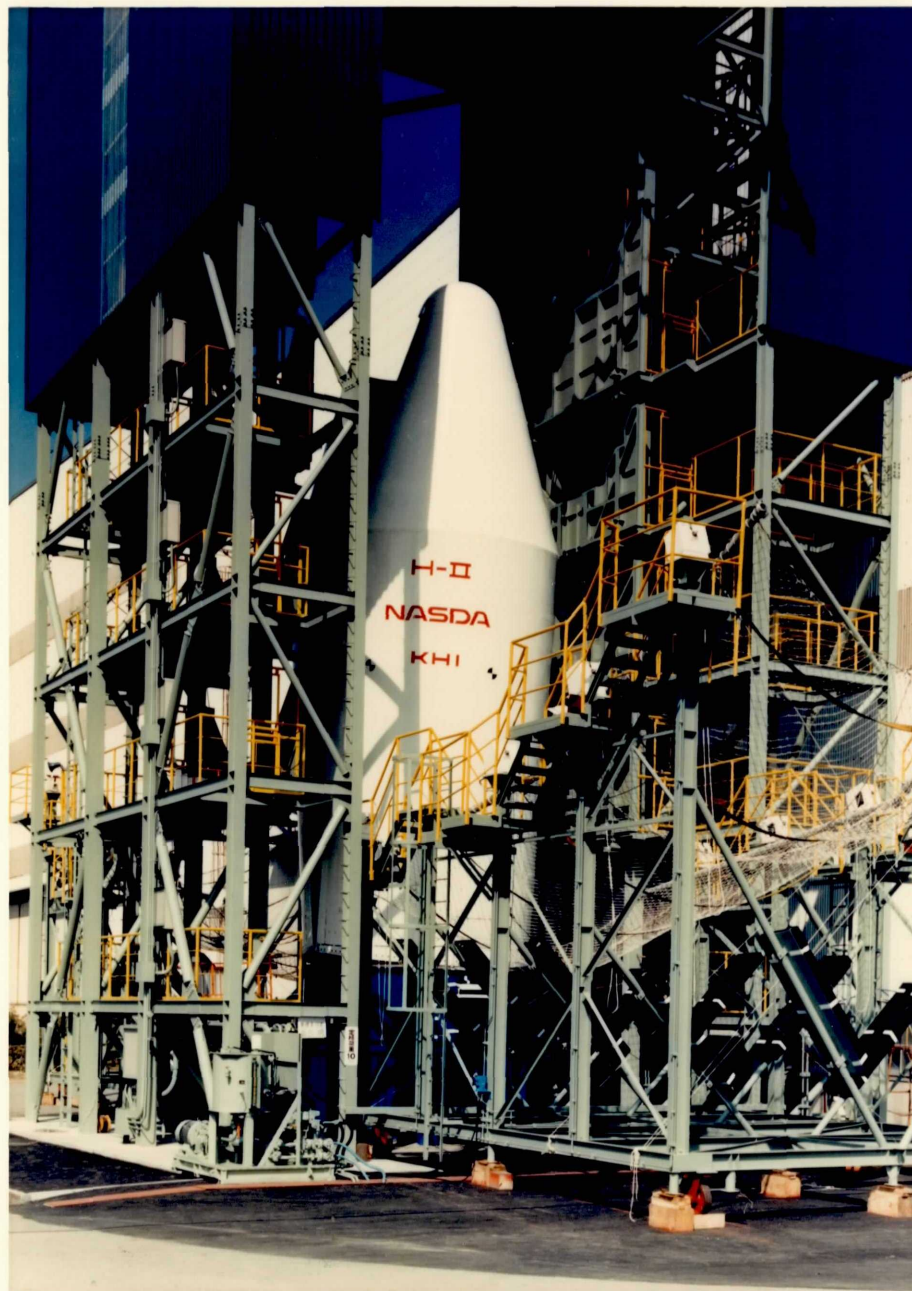


H-II ロケットの開発スケジュール

年 度	5 9	6 0	6 1	6 2	6 3	6 4	6 5	6 6	6 7
主要マイルストーン	機種選定 ▼		開発開始 ▼				試験機1号機打上げ △		△2号機 打上げ
開 発 階 段	研究開発			開 発					運 用
開 発 実 績	実 行			計 画					
汎 用 計 画	概念設計		基本設計	詳細設計		維 持 設 計			
開 発 試 験	システム予備燃焼試験 原型 実機型 認定試験 エンジン燃焼試験								
・第1段主エンジン (LE-7)									
・第1段									
・第2段									
・誘導・計測									
・固体ロケットブースタ									
・衛星フェアリング									
打上機体の製作									
施設・設備の整備	第1段エンジン燃焼試験設備 固体ロケットブースタ燃焼試験設備 射 場 設 備								



LE-7エンジン



フェアリング